



市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



日本共産党
HP

参議院議員
たけだ良介

参議院議員
井上哲士

衆議院議員
笠井あきら

禁無断転載
複写配布

水道料金制度の見直しを

2020年度決算を審査する決算特別委員会が10月13日から15日まで開かれました。砂田市議の指摘事項をお知らせします。

水道基本料金10立方メートル17800円

4・8立方メートルしか使わなくても、支払いは基本料金

決算特別委員会 砂田市議が指摘

小矢部市水道の基本料金（一般用）1カ月10立方メートル17820円です。これを超えると1立方メートル毎に178・2円の超過料金が発生します（20立方メートルまで）。20立方メートルを超えると超過料金が1立方メートル毎に187円に、50立方メートルを超えると超過料金は195・8円になります。



基本水量以下が約3割

砂田市議が取り上げたのは、1カ月10立方メートルも使わない家庭の料金の問題です。使用料の年間検針件数は10万4835件で、そのうち月使用量10立方メートル以下の件数は3万2701件です。この月平均使用量は4・8立方メートルです。約3割の家庭が基本水量の半分ほどしか使っていないのに、10立方メートルの使用料金相当額を支払っていることがわかりました。

県内でも基本水量の見直しが始まっている

県内では基本水量を引き下げたり、1立方メートル毎に使用水量に応じて水道料金を算出したりしている自治体も増え始めています。

市も

「今後の検討課題」と答弁

砂田市議の指摘に、市は基本料金制度をとっている理由について、水道水を届けるための配管やその他の諸設備

の費用を基本料金に含めているためだと説明しました。同時に、高齢化で一人暮らしの世帯やアパート暮らしが増

えている現実もあり、今後の検討課題としたと答えました。

基本水量 見直しの財源をどうする

基本水量を引き下げると、市の水道企業会計の収入が減ることになります。これを補うには1立方メートルの単価を引き上げる可能性もあります。砂田市議はそれを避けるために水道企業会計の経費節約の2つの提案をしました。

す。今年の受水協定の見直しで水量を6%減らして829万円縮減しました（自己水で補完するので運転費用の増加があり、差し引き592万円の縮減と見込む）。

砂田市議

提案① 県企業局の受水量、単価の引き下げ

一つは県企業局から買っている子撫川ダムの水の単価や購入水量を引き下げることです。これは県企業局から受水している関係4市で県と交渉して少しずつ改善させています。子撫川ダムの水を減らして、市の井戸から汲み上げる方がコストが安くなりま

提案② 境川ダム 未利用水の負担をなくす

もう一つは一滴の水も受け取っていないのに、境川ダムの建設費を小矢部市が負担させられており、それが年間1658万1千円になります。この不合理を正すために県と交渉することです。



マユハケオモト

コロナで陳情等の費用使わず

オンラインの活用で陳情経費などの節約を

秘書広報費で394万円余の不用額が出ました（予算額1820万円に対して支出額1425万円）。コロナ禍のもと、重点要望や各種陳情で、上京せずにオンラインや文書でのやりとりで切り替わったことなどによるそうです。

行政視察もオンライン

砂田市議は、上京しなくても市の業務に支障が出ていないのだから、今後の要望活動を見直して、オンラインでできるものはそれに切り替えるなど、工夫をすべきだと指摘しました。市議会の議会改革協議会理事会も8月27日、鳥羽市議会との行政視察をオンラインによりZOOM会議方式で実施したこともあり、今後このような経験も生かして、税金の支出を減らすことも重要です。

